

## 葛城山ハイキング実施

2012年5月27日、恒例となった職員ハイキングを実施いたしました。対象は職員・職員家族で日曜日を利用してのハイキングでした。日ごろの体力を試す絶好のイベントとなり多くの職員が参加いたしました。



## 院内電子カルテハードウェア更新実施

2012年7月14日～17日にかけて病院移転時より使い続けた院内電子カルテのハードウェア更新を行ないました。約300台のコンピュータと基幹・部門システムをこの3日間で一気に入れ替えたのです。切り替え時の入院中の患者さんの情報の確保や救急患者さんの受け入れには細心の注意を払いました。その甲斐あって無事に切り替えることが出来ました。技術的な評価として、ネットワーク機器も含めたハードウェア環境を最新にした事により快適な処理速度を確保することができました。導入の効果はあったと思います。



## 編集後記

広報室 M

8月に、ふらっと犬鳴山へ行ってきたのです。ここは関西国際空港付近に位置する山で、JR阪和線とバスで簡単に行けるのですが、そんな簡単な場所にこんな絶景パワースポットがありましたのです!!!

そもそも修験者の修行の場だそうで、写真の場所はその結界をくぐり抜けた山奥のそのまた山奥。何か感じれぬパワーを感じました。山頂のお寺では護摩焚きなどのイベントもあるようです、パワー不足を感じられている方にはお勧めかもです!!

私は普段の運動不足が祟ってふらふらになりましたが、気分はかなり爽快でした。



\*東住吉森本病院のホームページでも情報が日々更新されております。 <http://www.tachibana-med.or.jp>

## 医療法人橘会 役員就任式

2012年6月1日に医療法人橘会の役員就任式が行なわれました。

前理事長の森本談先生は会長の役職へ、そして新理事長には、副理事長であった森本義彦先生が着任しました。新組織体制で今後もますます地域医療に貢献してゆきます、よろしくお祈りいたします。

## 医療法人橘会 役員



## フットケア血管外来を始めました。

2012年9月12日よりフットケア血管外来を始めました。高齢化と糖尿病増加により、下肢末梢動脈疾患(PAD)による重症下肢虚血(CLI)から下肢切断に至る症例が増えています。糖尿病のフットケアを始めとしてPADを主とする足病変の総合的治療に取り組み、下肢切断術を回避するためのフットケアへと発展させて行きたいと考えています。地域の先生方や多領域にわたる連携が必要になり御指導を賜わることがあるかと思います。その際はよろしくお祈り致します。\*毎週水曜日 13:00～16:00



## 第1回感染管理合同カンファレンス開催

2012年7月20日に第1回感染管理合同カンファレンスを行ないました。これは他病院との感染管理に関する合同カンファレンスで、当日は近隣5つの医療機関に当院へご足労頂き、活発な情報交換など行いました。当院からは、感染防止対策委員長の葺さ内科部長、看護部・荻田主任をはじめとするICT(感染防止対策委員)のメンバーが中心となり司会進行をいたしました。医師をはじめとする医療従事者が約40名程の参加がありました。



## 第1回 東住吉森本病院緩和ケア勉強会開催

当院は、がん診療拠点病院として様々な活動をしておりますが、去る2012年8月17日に院内外の医療機関従事者対象に緩和ケアに関する勉強会を開催いたしました。タイトルは「緩和ケアをはじめのために～私たちにできること～」で当院の緩和ケア認定看護師・江口看護師がレクチャーしました。本勉強会もシリーズで行なわれ、詳しくは当院ホームページ「がん診療拠点病院」のページをご参照ください。





## 大阪市南部地区 消化器外科講演会

開催日：2012/6/2(土) 16:00～18:00

場 所：シェラトン都ホテル 3階『明日香の間』

内 容：

大阪市南部地区 消化器外科講演会が開催され、座長を当院の救急総合診療部・統括部長 池邊先生が勤めました。まず 田中副院長より『当院外科における最近5年間の歩みと展望』が報告され、当院の外科体制整備の話や今後の展望などを総合的に話しました。その後、清田部長が、『肝転移合併大腸がんに対する手術と抗がん化学療法を併用した治療戦略』を報告しました。最後に、金沢部長が『当院における腹腔鏡下大腸切除術～導入から100例の検討～』を報告しました。また、特別講演として、がん研有明病院 消化器センター-医長 福長 洋介先生 から「腹腔鏡下大腸癌手術の20年と私の変遷」という講演があり、低侵襲な手術としてのメリットを出血症例や術中術後の合併症などの総合的な観点から評価した報告がありました。当日は、動画によるプレゼンテーションもあり判りやすいプレゼンテーションでした。

当日は、参加者全員に「東住吉森本病院 外科 最近5年間の歩みと展望」(田中副院長監修)の冊子が配布されました。



<最近5年間の歩みと展望より抜粋>

平成19年4月に大阪市立大学肝胆膵外科から当院に赴任し、早いもので5年が経過しました。当時の森本理事長(現会長)先生から、「大学に負けない田中外科をここで作ってみよう。肝移植でも何でもやりたいことをやってくれたらいい。」との力強いお励ましを頂戴したことを、ついこの前のように思い出します。この5年間、まさに無我夢中で、あっという間に過ぎ去った感がありますが、森本会長、森本理事長、宮城名誉院長、瓦林院長はじめ、多くの職員の皆様を支えていただき、何とかここまで来ることができました。心より感謝申し上げます。

振り返りますと、大学病院在籍中は肝移植やリスクの高い肝門部胆管癌の手術などに挑んできましたが、当院へ赴任後は肝胆膵外科領域にこだわるのではなく、消化器外科全般、特に悪性疾患に対する最新の標準的な外科治療を実践することを目標としてきました。実際に当院での勤務を重ねるにつれ、人口約34万人を抱える東住吉・平野区における唯一の急性期病院としての使命を強く意識するようになり、特にがん診療に関しては、単に手術をこなすだけではなく、術後のフォロー、再発後の診療、化学療法、緩和ケア、看取りなどについても、地域の先生や介護施設の皆様と連携しながら、その中心的役割を果たさなければならないと思うようになりました。「地域完結型診療の中心を担う基幹病院の外科として信頼されるチームを作る」という目標が明確となった5年間であったと思います。

とはいっても、まだまだ不十分なことが多く、森本会長にも不甲斐ない思いをさせてしまっていることでしょう。しかし、5年というのは端緒に過ぎず、今後の継続的な取り組みが大切です。逆に、方向修正すべき事項もあるかもしれません。本冊子はこの5年間の軌跡を振り返り、今後の方向性を見定める礎とすべくまとめてみました。

東住吉森本病院 副院長・がん診療センター長 大阪市立大学医学部臨床教授 田中 宏

\*「最近5年間の歩みと展望」は、当院ホームページの医療関係者用外科ページからもダウンロードできます。

## 病診連携勉強会

開催日：2012/9/15(土) 17:00～19:00

場 所：日航ホテル 31階『ローズ』

内 容：

本勉強会は、地域の医療機関の先生方との症例検討会を含めた勉強会でした。

当院からは、脳神経外科 医長 磯野 直史先生より『無症候性病変を考える』というタイトルでプレゼンテーションがありました。無症候性病変の中でもラクナ梗塞と未破裂脳動脈瘤に絞った講演で、MRI画像診断や、当院で施行された手術症例の提示など興味ある発表でした。ただし、脳血管障害の予防には日々の高血圧治療が最も重要であることはガイドラインやEvidenceによって明白であり、日常の降圧治療の重要性を強調されていました。

地域の開業医の先生方からも症例報告があり、比較的少人数な会という事でしたが、質疑、応答など含め時間をオーバーするほどの活発な意見交換会となりました。



## 第15回 東住吉ハートカンファレンス

開催日：2012/9/29(土) 17:00～19:00

場 所：スイスホテル南海大阪 7階『芙蓉の間』

内 容：

冒頭、年2回開催されている東住吉ハートカンファレンスが8年目の15回を迎えることが出来、御礼の挨拶が院長瓦林先生よりありました。当院からは、循環器内科医長 金森 徹三先生より、『かかりつけ医がみる不整脈診療～専門医へ紹介するタイミングとその後のfollow up～』という演題で発表がありました。心室細動に対してAED蘇生した症例、徐脈、期外収縮、動悸の症例など日常診療で直面する様々な不整脈症例が紹介され、それらのリスクファクター、診断や急性期医療機関への紹介を含めた対応など、症例ごとに解説がありました。また、最新の話題としてMRI対応ペースメーカーの使用条件と有効性についてのお話もありました。続いて特別講演として国立循環器病研究センター心臓血管内科部門部長 清水 渉先生より「遺伝性不整脈の最新的话题」の発表がありました。本テーマは大きく3つ(下記①～③の症候群\*)に分けられ、遺伝性不整脈疾患の原因遺伝子とチャンネル機能という視点から、その治療方法が紹介されました。とりわけ②と③には類似点があり、これらに関する詳細な解説もありました。大変興味深い内容でした。当日は、70名を超える参加者があり大変盛況な会でした。

\*3つの症候群：①先天性QT延長症候群、②Brugada症候群、③早期再分極症候群

